

2.23才5回臨時大会の成功にむけて



2月行動の強化を



81.2.12

No. 656

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆) 日誌(22)七二〇七

現在、動労千葉は一月総決起行動でかちとつた一・三〇「再建地本」デッチ上げ策動粉碎の闘いの総括と、三月ジェット闘争勝利・組織破壊攻撃粉碎を中心とする二月行動の取り組みを決定した第四回支部代表者会議方針をもって全職場で闘いに突入している。かかる状況下、動労千葉闘争委員会は、二月行動の闘いの烈火の中で三月ジェット闘争の具体的戦術をうち立てるべく、第四回臨時大会を二月二三日(於千葉県労働者福祉センター大ホール)開催招集指令を発した。

全組合員のみなさん。第五回臨時大会は「動労千葉がいかなる三月戦術方針を決定するのか」と全社会的注目を集めている。大会の成功か否かに三月闘争の一切の成否がかかっている。大会成功にむけ二月行動を全力で取組み、職場討議を巻き起こそう。

明らかになった「再建地本」の実像

一・三〇「再建地本」デッチ上げ策動粉碎・勝利の核心中の核心は、一・二七銚子支部臨大で「業務再開」白紙撤回決定をもって、一・三〇「再建」大会を空洞化し粉碎したことである。実際、佐倉・津田沼・新小岩のスパイ・裏切り分子だけで「再建」をデッチ上げるとするならば、今日まで引き延ばす必要はなかったであり、銚子支部の参加なしに「再建」したといってもそれはあまりにも実体も、組織的展望もないみじめなものであるのだ。銚子支部を切り捨て三信ビル(千葉事務所)で「再建大会成功」なるデマ宣伝は、一月総決起行動を貫徹し抜いた動労千葉の底力と、さらに追い詰められた「本部」反動分子の実態をより鮮明に示す以外のなにもでもないのである。「本部」反動分子の破産の実態をさらけだしたなによりもの証しは、

第一に、弁護士同道で千葉中央署に正式警備要請を行い、一・三〇当日には八獄委員長、目黒参議院議員が県警へ表敬訪問するというところに、「権力の謀略」を云々する動労「本部」の恥も外聞もない権力とのユ着の実態が端的に示されている。

第二に、七五〇名の外部(革マル)部隊を会場防衛と称して投入し、機動隊、放水車に守られて、なおかつ予定の会場で「再建」大会ができないという事は、今日「本部」反動分子がデマ宣伝する「再建」の中味であり、僅かに残存する千葉内「本部」派組合員はもとより全国の動労組合員の組織不信、内部亀裂は、一・三〇以降さらに増幅されている。

第三に、県労連・社会党県本から一・三〇「再建」大会を拒否され、県労連への加盟申請をも却下された「再建地本」は到底労働組合とは言えない。

い代物である。しかも「再建」したといいつつ「業務」は今まで通り「千葉事務所」が代行し、「代表者」は革マル分子・緒方某であるということに、「再建」のデッチ上げ性と破産ぶりは明々白々である。

動労千葉破壊攻撃を粉碎し、三月ジェット闘争へ

前記した三点をみるまでもなく、一・三〇「再建」策動は「本部」反動分子の面子と動労千葉解体を目的とした以外の何物でもない。彼らの真の狙いが動労千葉解体と八一・三闘争つぶしにある以上なりふりかまわぬ凶暴な組織破壊攻撃をかけてくることは必至である、これを直視し対決し粉碎してゆかなければならない。

現に「本部」反動分子は「十数年にわたる千葉地本の再建の闘いは、画期的な地平を切り拓いた」として、実は十数年前から動労千葉排除の画策していたことをあけすけに語り、「当面の取り組みの基本目標は・・・千葉動労解体闘争の前進の中から、残された七支部の再建、組織拡大闘争を展開する」「旧千葉地本組合員(統制処分者を除く)の動労帰属問題の取り扱いは、全国大会で整理し、すべて関係をたち切る・・・それまでの間は組織拡大オルグで可能なかぎり再建強化をはかる」等として、当面、労働組合以前のぜい弱きわまる「再建地本」を維持するためにも、「復帰呼びかけ」運動(三〇周年記念恩赦運動)をもって動労千葉破壊攻撃にうってでようとしている。われわれは、かかる極悪きわまる組織破壊攻撃を粉碎し、三月ジェット闘争へ団結をより強固に前進しよう。

お詫びと訂正

本紙前号(六五五号)上段の「再審却下」期日の2月17日は、2月7日の誤りです。お詫びし訂正します。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ